

Rotary



世界に希望を生み出そう

2023-2024年度

会長 茶谷 勝

幹事 岩崎 正人

会長あいさつ 茶谷 勝会長



英語スピーチコンテスト、お疲れ様でした。年々、参加者のレベルが上がっていることを実感しています。父兄の方から「子供たちにとっても良い刺激になった」との言葉もいただきました。これからの国際交流にとっても心強く感じます。本日は防災の日です。今年の夏は例年の8%しか降水量がなかったそうです。100年前に関東大震災

が発生しました。「地震・雷・火事・親父」と恐ろしいものの例えが挙げられますが、天災はいつ起こるかわかりません。いざという時の備えを話し合う機会にしたいと思います。先日、帰省中の大学生の娘と一献交わしました。自分の考えをしっかりと伝える姿に成長を感じました。世の中の変化や若い世代の価値観に私たち自身も変わり、対応していくことも大切なんだと感じました。

Happy Birthday

辻 浩君
(9月4日)



1951年生まれで72歳になります。入会し40年以上、さまざまな勉強をさせていただきました。こんなもんで人生を過ごせれば良いんじゃないか？と先輩がたから教えられています。これからはトラブルもあるかもしれませんが、「こんなもんでいいんじゃないか」ということで生涯を過ごしていきたいと思っています。

幹事・委員会報告

◇ガバナー事務所より

- ・ガバナーマンスリー9月号
- ・ロータリーレート 1ドル=146円
- ・第52回ロータリー研究会登録と振込のお願い
- ・2023-24補助金申請一覧
- ・財団室NEWS
- ・クラブ地区支援室メッセージ
- ・地区大会信任状証明書提出のお願い
- ・風の便り

◆野々市ロータリークラブより

- ・ジャパンハートクラウドファンディングについて

卓話

「奉仕活動について」 朝日奈利幸君

私は今年51歳になります。朝乃山関と同じ富山市呉羽の出身で小中高と同じ足取りをたどっています。高校時代はバドミントン部に入り、厳しく鍛えられたことが私にとって大きな思い出となっています。富山商のバドミントン部は名門で、当時の全日本クラスの監督、コーチなどが富山商OBが務めていました。初心者レベルで入部しましたが、最後は全国大会に出場するまでに鍛えられました。その後、YKKapに入社したのはバブル末期の頃でした。



ロータリークラブに参加し、久しぶりに「奉仕」という言葉を意識するように私自身が変わってきました。YKKグループの精神に「善の循環」があります。創業者が遺した「他人の利益を図らずして自らの繁栄はない」という教えです。営業に出始めた頃、お客さまから「YKKの製品は高い」と言われることがありました。先輩社員からは価格も大切だが、お客様に付加価値や信頼を提供することが大切だと教わりました。ロータリーの「職業奉仕」という言葉には地域社会から信用と信頼を得て社会貢献をすることの必要を説いており、「善の循環」と通じるころを感じています。これからもロータリー活動を通して「奉仕」の気持ちを胸に刻み視野を広げていきたいと思っています。

出席報告

3364回 出席11名(55.0%)
3362回メイクアップ なし
70%→70%

ニコボックス

稲盛君 英語スピーチコンテストは感激しました。
茶谷君 英語スピーチコンテスト大成功です。
青山君 英語スピーチコンテストは皆さまの活躍で盛会にて終えました。第5回に向けて頑張ります。
辻君 誕生祝

会長あいさつ 茶谷 勝会長



世界に

毎朝、外でタバコを吸う習慣がありますが、今朝の空気には秋の訪れを感じました。昨日まで帰省していた大学生の娘が友達を連れて富山県内をあちこち回って遊んでいたようです。感想を聞いてみると、温泉好きな子は何度も温泉に入り、バイ貝を食べた子はとても感激したそうです。私たちが当たり前と感じていることも他県から来た人にとっては素晴らしいと感じるようです。私たちも改めて地元の良さというものを見つめなおして良いのではないかと思います。入善の洋上発電のプロペラが回り始めました。頑張っている企業や人がいるのに、ビッグモーターのように一部の企業がモラルに反したことを起こしてしまうことがとても残念です。ロータリアンの奉仕の精神、利他の精神を大切にするとそうした問題は起こらないと思います。

出席報告

3365回 出席13名(65.0%)
3363回 なし
70%→70%

Happy Birthday

中田幸雄君 (8月28日)



68歳になりました。誕生日の数日前に青山先生に診察を受けて、ももんもと自宅療養しておりました。会社でも連日罹患する人がいます。少し注意する気持ちが緩んでいたのかなあと反省しております。

幹事・委員会報告

◇ガバナー事務所より

- ・バギオだより9月号
- ・日台ロータリー親善会議台北大会登録締め切り延長

◆会員増強委員会(青山委員長)

・会員増に関するアンケートを実施しています。例会の開催曜日の検討など、会員増に関するご意見を寄せていただきたいと思います。

・コロナは家庭内感染が増えています。洗面所やトイレで感染リスクが増えます。ご注意ください。

◆創立70周年記念実行委員会(川岸委員長)

・式典にご臨席いただくガバナー、市長など来賓の方々にご案内し、内諾をいただいております。また、基調講演の講師にも内諾をいただいております。今後もPRしてまいります。

卓話

「ちほう新聞徒然」

高原和彦君

皆さまには北日本新聞は日頃からご愛顧いただき感謝しております。北日本新聞は明治17年(1884年)に前身の中越新聞が創刊し、昭和15年(1940年)に当時の県内4紙が統合して現在の北日本新聞となりました。来年で創刊140年を迎えます。昭和の戦時下では政府の言論統制により東京、大阪などを除き、1県1紙の発行を原則



とする「新聞統制」が行われました。そうした歴史を経て、全国には地方新聞がたくさんあります。唯一、地方新聞が発行されていない県はどこでしょうか？滋賀県です。当社は「北日本」ですが、西日本(福岡)、南日本(鹿児島)はあり、東日本新聞だけありません。また、題字(新聞名)には東奥(青森)、上毛(群馬)、下野(栃木)など旧国名を冠した社もあります。多くの地方紙は地元の有力者や政治家が創刊したケースが多いため、現在も脈々とオーナー経営を続ける社が多くあります。信濃毎日(長野)、河北新報(宮城)、四国新聞(香川)などがそうです。河北新報は先代の社主が横綱審議委員長を務めるなどの名門で、現在の社主の息子さんは本因坊の一力遼さんです。東京支社に配属された形となっており、年に数度出社されるそうです。四国新聞の社主は初代デジタル担当大臣の平井卓也さんの家族です。平井大臣が地元で墓参りをするトピック記事として報じられるそうです。栃木の下野新聞はギョーザ消費日本一を宇都宮が奪還するためキャンペーンを張ります。岩手日報は地元のスーパー・大谷翔平選手がMVPを受賞した際、号外を東京やロサンゼルスでも配布しました。北海道新聞はコロナ禍で苦しむ地元経済を鼓舞(コブ)するために昆布(コブ)に食用インクで印刷した昆布新聞を発行して話題になりました。その他にも地元活力の応援や地域創生のために取り組む多くの地方新聞があります。皆さんも出張や旅行で各地にお出かけになられた際は、地元の新聞を手にとってみてください。

ニコボックス

- 川岸君 県交通安全大会で県警本部長表彰をいただきました。
- 茶谷君 新しい相棒が納車されました。娘ら女子大生4人と魚津を満喫していきました。
- 中田君 誕生祝い